

協振技建調査部の野坂です。

今年1月に行われました第53回気象予報士試験に合格しました。

皆さんの参考になるかはわかりませんが、気象予報士試験へ取り組んだ時の話を致します。

なぜ気象予報士?と思われた方もいらっしゃるかもしれません。

ちょっとマニアックなこの資格、所持者の皆さんのきっかけはいろいろだそうですが、自分の場合は幼いころからの地図好きと同様の脳内回路で天気図がとても好きだったことが始まりです。

好きな番組は「天気予報」。特に詳しく専門的な解説をしてくれたNHKの午後6時55分からの中村次郎さんの枠が大好きでした(済州島のカルマン渦の説明などをしてくれる)。

その時間になるとテレビをつける変わった子供は、大学生になると木造の学生アパートの一室で、夜な夜なNHKラジオの気象通報を聞き、頭の中で天気図を描いたりしていました。

気象衛星の雲画像が誰でも気軽に見られる時代が来ると、台風やアリューシャン低気圧の雲の渦巻に見とれたりもしていました。

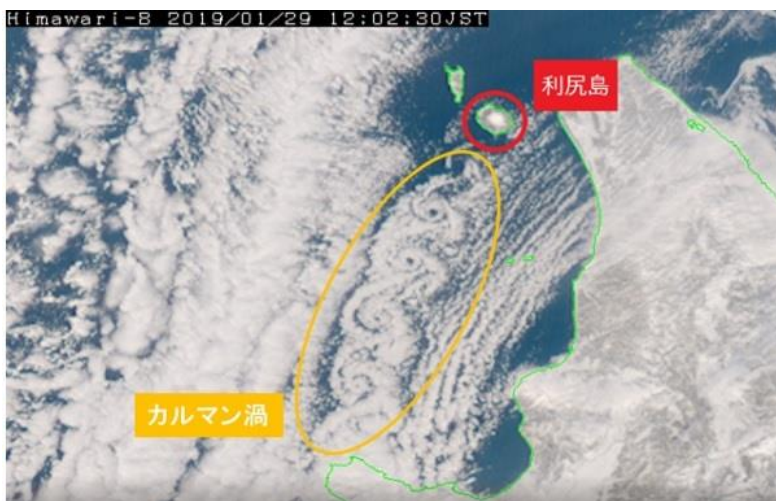
(今、職場のPCの壁紙は平成27年の台風11号です)

しかしそんな自分も、すんなりこの合格に向けて進んできたわけではありません。

気象予報士は平成6年度に創設され、翌年から気象情報は気象庁とは別に、民間でも独自の予報が出来るようになりました。

ぼくはその時、すでに社会人になっていましたが、その頃は社会に適合するのに一生懸命で、気象のことから心の距離があった。

頭の中に「気象予報士」というキーワードだけがひっかかっていた時代でした。



<画像1：冬季、北海道利尻島の風下に現れたカルマン渦>

気象庁「利尻島の風下で発生したカルマン渦」 ([https://www.jma-net.go.jp/sat/himawari/obsimg/image\\_cloud.html](https://www.jma-net.go.jp/sat/himawari/obsimg/image_cloud.html)) を加工して作成

ようやく身の回りも落ち着いてきた 30 代。と言えば聞こえはいいですが、現実には仕事に日常に流されがちな日々でした。

「気象予報士受けようかな」という気持ちは、マニアックな取り組みをすることによる「やってる感の充足」すなわち受験自体が目的化した「消極的動機」による受験に他なりませんでした。

幼いころから親しんでいた気象の知識で何とかなる部分もあるだろうし…などという僕の浅知恵が完全なる思い違いであったことは、その後の度重なる受験失敗で明らかになります。

気象予報士試験には「学科試験（一般、専門）」と、天気図を与えられて予報や防災事項を考えたり災害級の現象の原因を読み解き記述したりする「実技試験」があるのですが、とにかく実技試験が受からない。

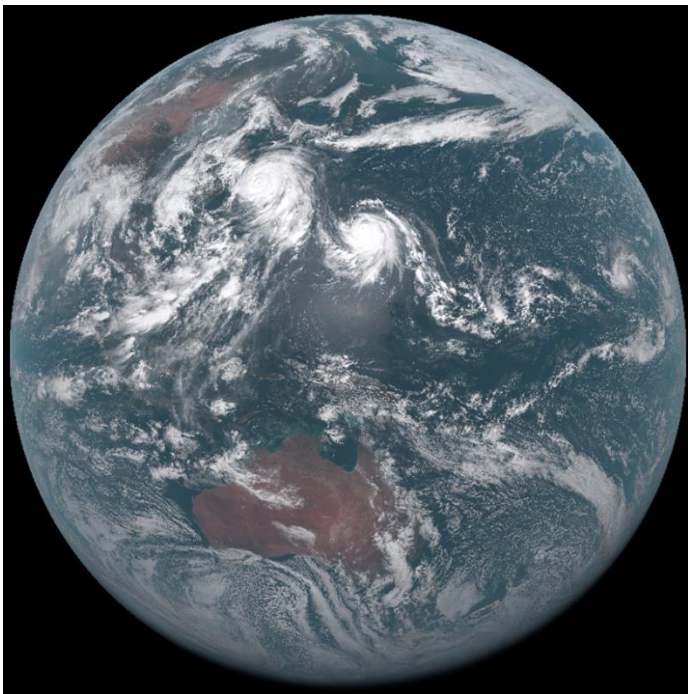
1 度の学科試験の合格が 1 年間有効で、気象予報士試験は 1 年に 2 回実施されますから、1 回の学科合格で年内に 2 度目の実技受験が可能。

これを 2 回繰り返して実技試験を結局 4 度受けても完敗でした。

結局「やってる感の充足のために何かに取り組んでも、なかなかうまくいかない」。

「消極的な動機」ではなく、まず筆頭の情熱として「どうしても〇〇になりたい!」という「積極的な動機」がなくてはならないのだ。

それをぼくは思い知り、生半可な取り組みでかえって遠い存在にしてしまった気象予報士というキーワードにそっと蓋をして、忘れることにしたのでした。



<画像 2 : 2015 年 7 月 10 日の全球可視画像。日本付近にあるのは台風 9 号と 11 号>

出典：気象庁ホームページ (<https://www.jma.go.jp/jp/gms/>) (全球・可視・拡大・カラー、2015 年 7 月 10 日 12:00JST)

月日は流れ。

50代となり、体の衰えとともに頭の劣化を感じる始めた時、人生の残りの時間を考えるようになった。

もう一度「積極的動機」で取り組みたいことがまだ残っているのではないか？

その時、情熱としての「なりたい」気持ちが、まだ気象予報士に向けて残っていることを自分で確かめました。

やってる感の充足のためではない。自分がやりたいからやる、なりたいからなる。

するとやがて、電車の中や、ちょっとした病院の待ち時間など、いろんな隙間時間でテキストに目を通すようになっていました。

はた目から見ると「なんて勉強の好きな人！」と思われていたかもしれませんが、決してそうだったわけではありません。

やってるフリなんてする必要ないし、ただ単にやりたいことをやっているだけ。

結局は、気象予報士になる、なっている自分の方がきっと好きだろうという、その部分が力になったのでした。

今の業務との関連は少ない資格ですが、自分でやりたいと決めてやれたというのは、仕事をする上でも糧になるのではと感じます。会社としてもいろんなチャレンジを推進してくれているので、自分としても、次の挑戦のためのいい経験となったと思います。

加えるならば、折しも地球温暖化に伴う気象の激化の時代に入ったと言われる昨今、気象予報の第一の目的である「防災」において、何らかの形で社会の役に立てればと思います。

拙い体験談でしたが、皆様の今後のご活躍の参考になれば幸いです。